

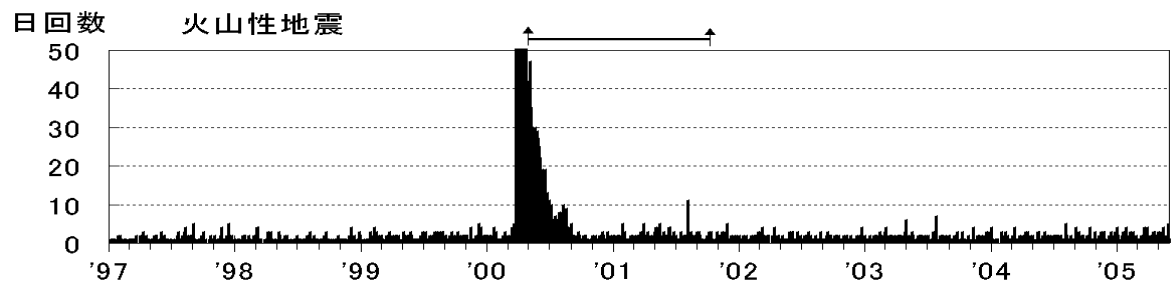
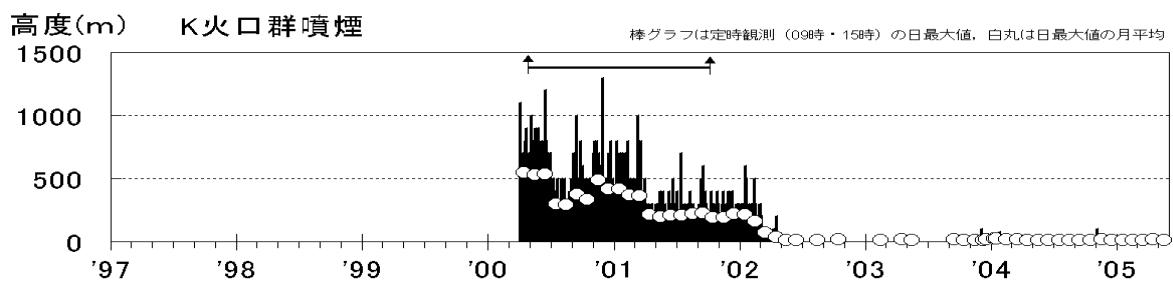
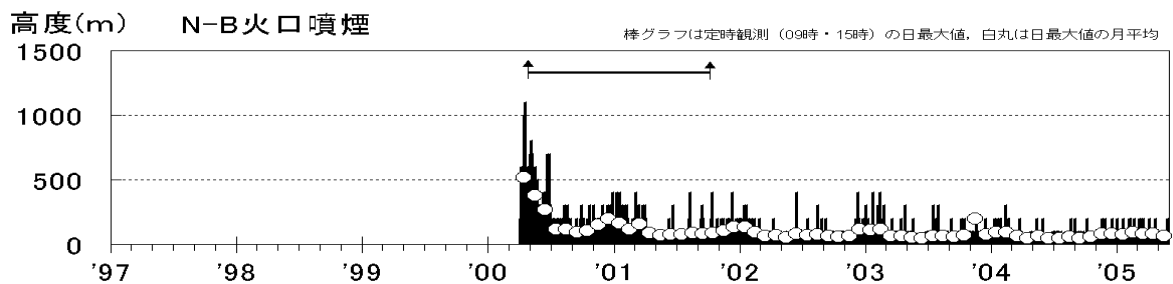
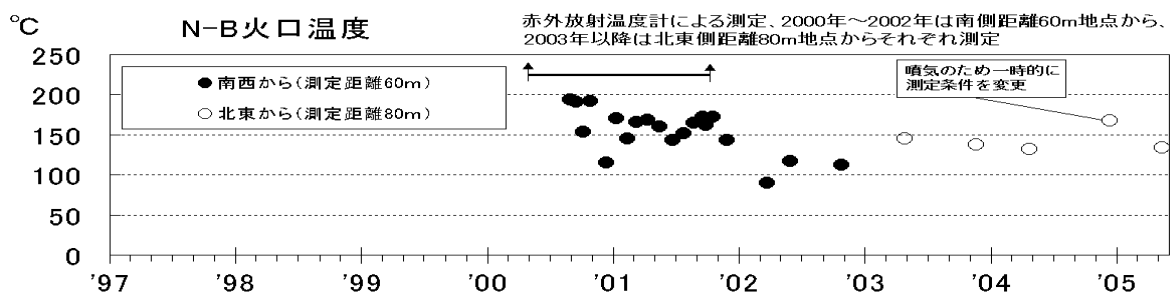
有珠山

1 概況

11~12日に実施した調査観測では、各火口の状況に変化はありませんでした。火山活動は静穏な状態が続いています。

2 噴煙の状況

西山西麓(N)火口群にあるN-B火口では、弱い噴気活動が続いており、噴気の高さは火口縁上おおむね100m以下で推移しました。金比羅山(K)火口群では、時折ごく弱い噴気が観測されました。その他、山頂火口原や昭和金山でも少量の噴気活動が続いていますが、これまでと比べて特に変わった様子は認められません。



最近の火山活動経過図(1997年1月1日~2005年5月31日)

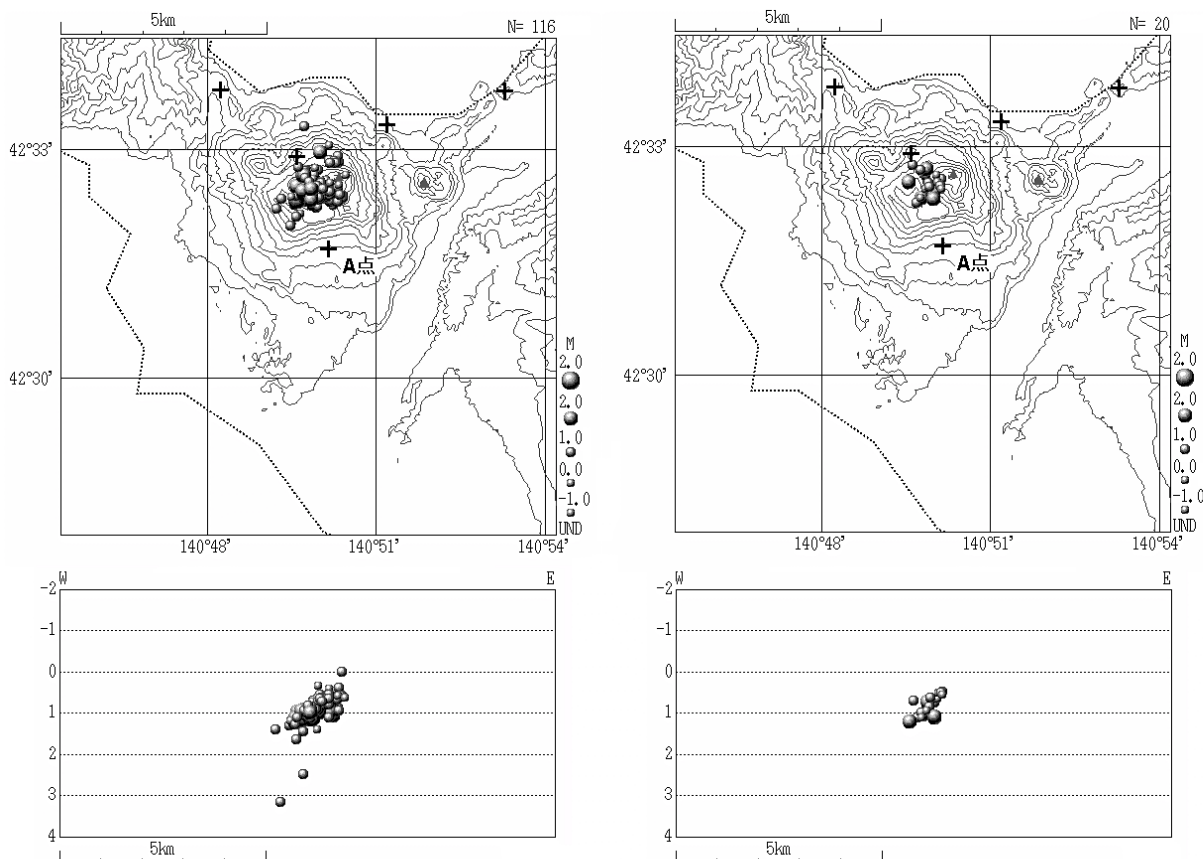
印で挟まれた期間は2000年噴火活動期

3 地震および微動の発生状況

火山性地震は 1 日あたり 0~5 回と少ない状態で推移しました。火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数（A 点）

2004~2005 年	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
地震回数	23	26	30	25	25	23	28	30	24	22	24	36
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



有珠山の震源分布図（丸印：震源 + 印：地震観測点）

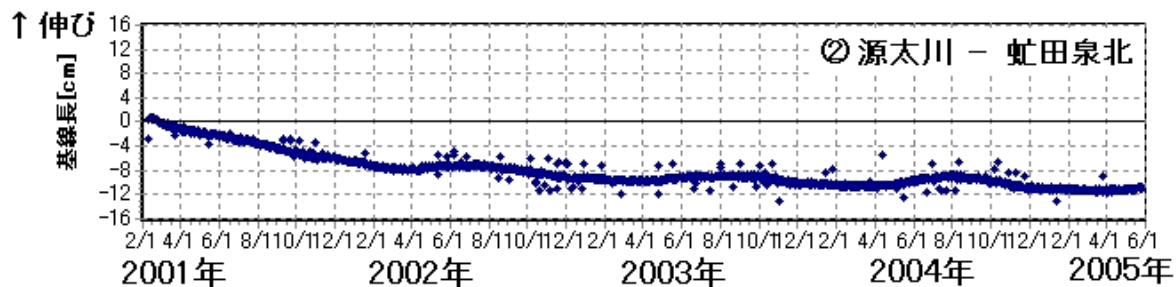
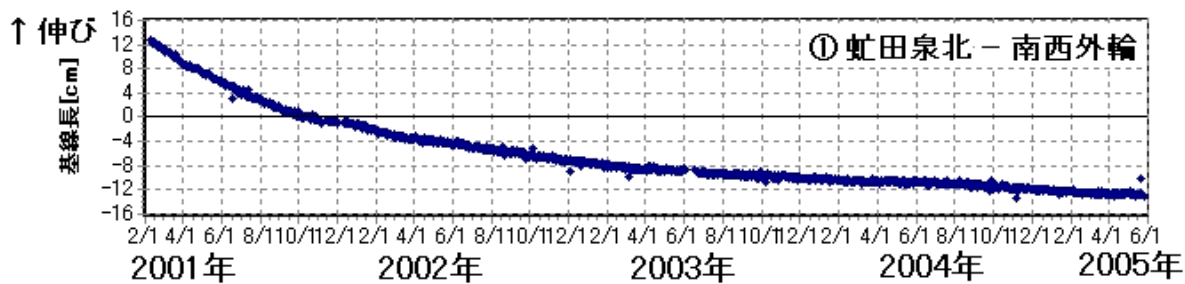
右図は今期間（2005 年 5 月 1 日～31 日）に求まった震源を示しています。

左図は前期間までの 11 ヶ月間（2004 年 6 月 1 日～2005 年 4 月 30 日）に求まった震源を示しています。

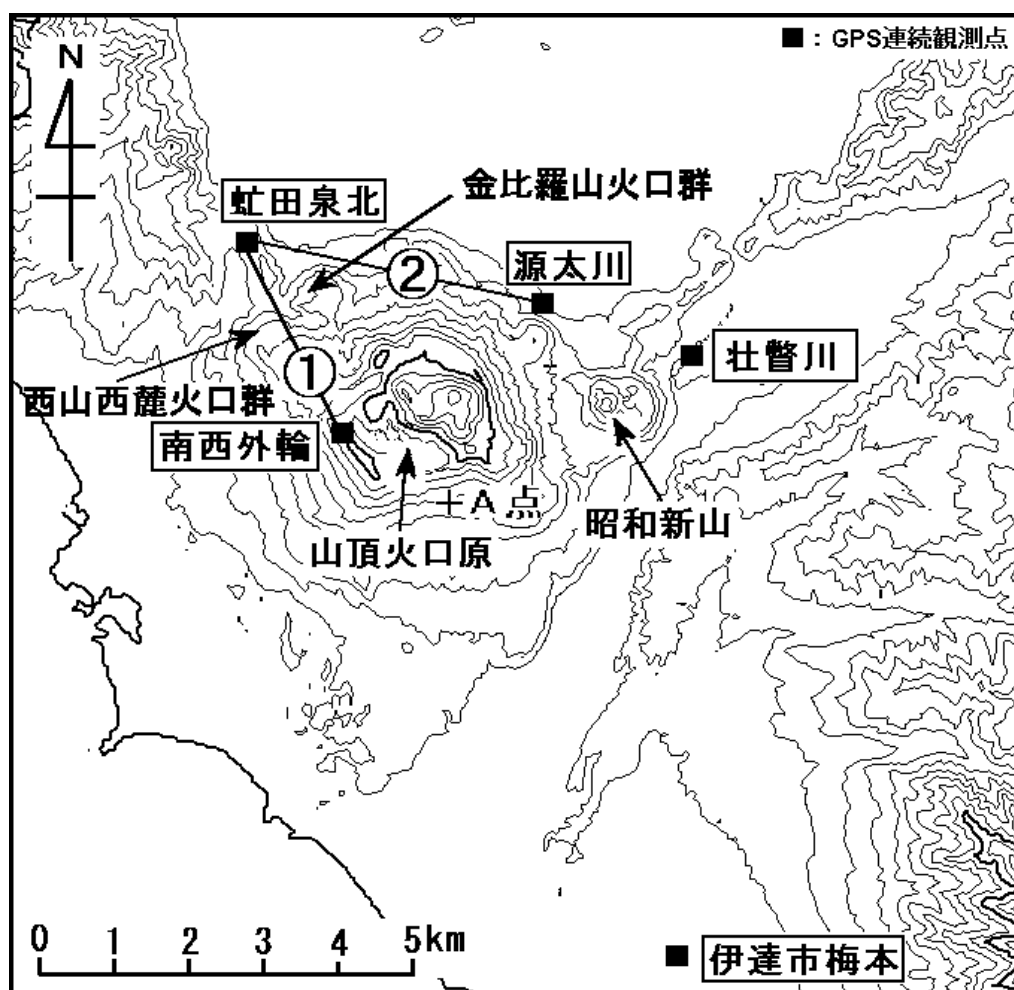
震源は山頂部直下の海面下 1km 前後に集中しており、今期間の震源もこの領域内に分布しています。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、特段の変動は認められません。



基線長変化(2001年2月9日~2005年5月31日)

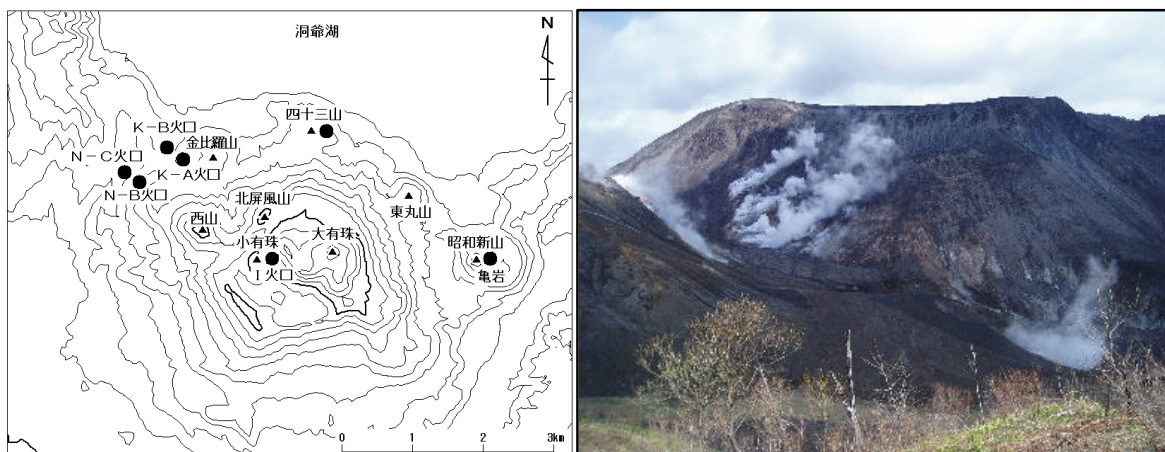


5 調査観測の結果

5月11～12日に調査観測を実施しました。各火口の熱活動は全般的に見て大きな変化はありませんでした。

【山頂火口原】

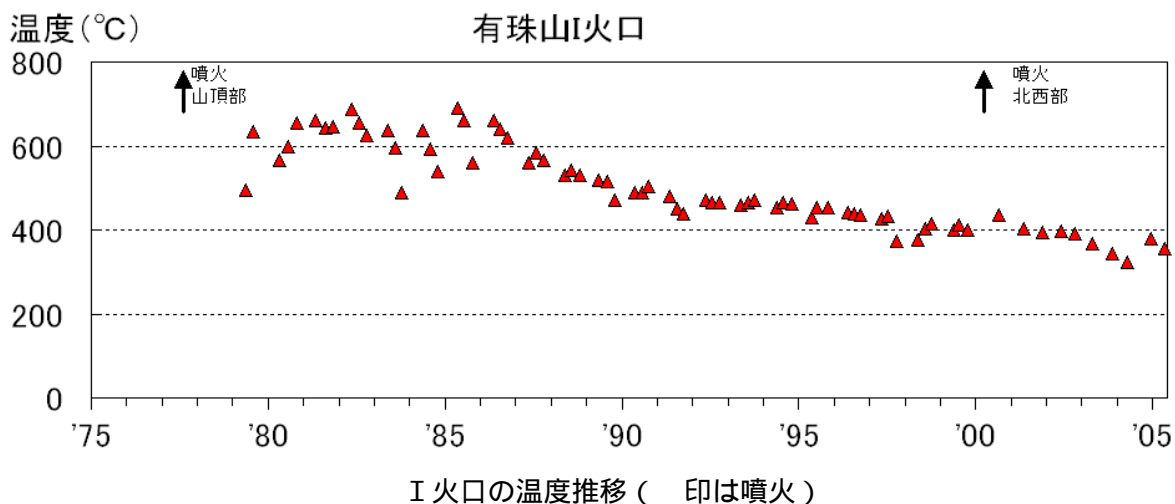
I火口では、多数の噴気孔から火山ガスが勢いよく噴出していました。噴気温度は約360（前回2004年12月：約380）で高温の状態が続いていますが、長期的には低下傾向にあり、1977年噴火時に貫入したマグマの冷却過程を示していると考えられます。



有珠山 周辺図

山頂火口原の状況

中央：I火口 右：銀沼火口

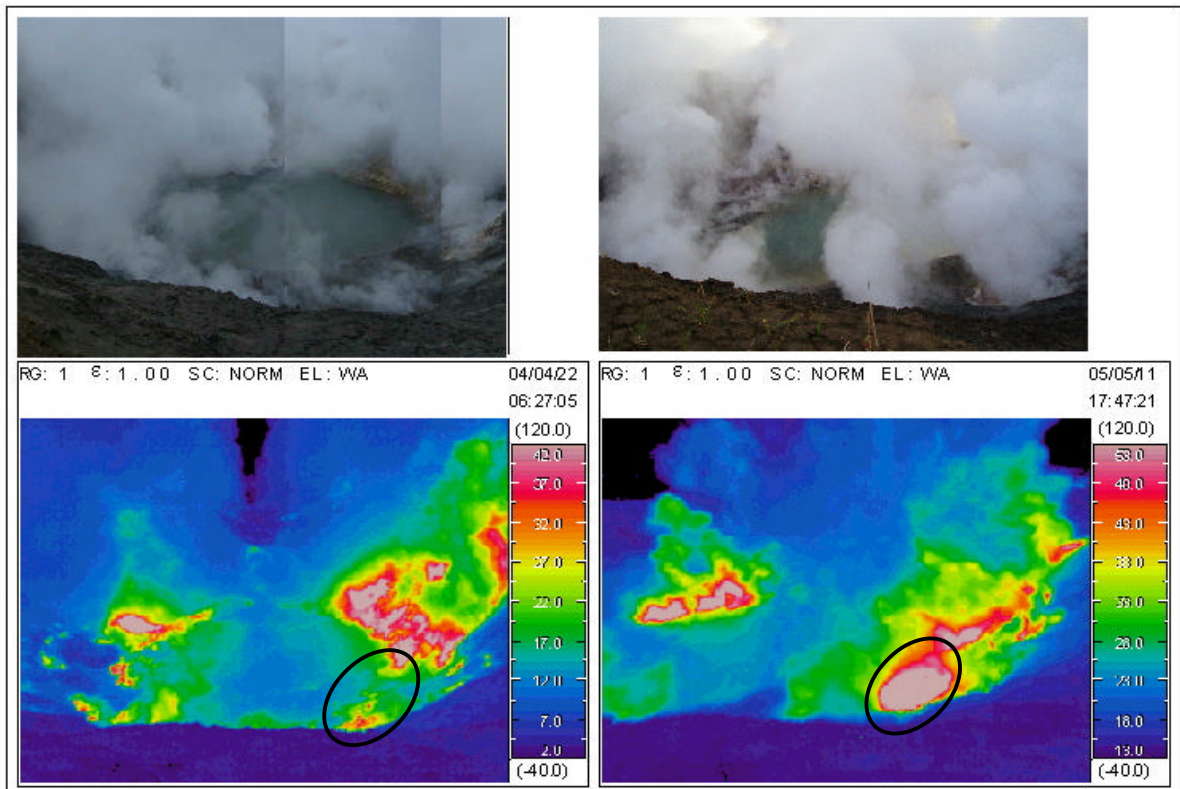


【西山西麓火口群】

N-B火口では南～西側火口壁で引き続き活発な噴気が認められました。

北東側火口縁（測定距離約80m）から赤外放射温度計*で測定した最高温度は約130で、依然高温状態が続いていました（2004年4月22日：約130）。また、赤外熱映像装置による観測では、火口内壁南側から北西側の変色域に対応した高温領域が引き続き認められました。北東側内壁では、地熱域（図中、黒丸で示した部分）がやや拡大した可能性があります。全体としてN-B火口内の熱活動に大きな変化は見られませんでした。

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。



北東側火口縁から撮影した N-B 火口内の表面温度分布
 (左: 2004年4月22日、右: 2005年5月11日、測定距離約80m)

【昭和新山】

噴気温度は亀岩で約 130、亀岩南側噴気帯で約 230 と前回(2004年11月)同様に高温の状態が続いていますが、長期的には低下傾向にあり、噴気の勢いも弱い状態です。



昭和新山亀岩の状況

